

●府民スポーツ広場

前回検証結果	要改善 ・施設の利用実態や代替施設の存在を踏まえ、施設の新たな利活用について、検討を行うこと。 ・新たなターゲット層を見据えた効果的な利活用方法を検討すること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	○効果的な利活用 ・自主事業として平日のグラウンド・ゴルフ事業を継続し、地域住民の生涯スポーツの普及に寄与。 ・令和４年度に山城総合運動公園陸上競技場から本広場内の自由広場に天然芝を移植して維持管理し、子どもの遊び場づくりや休憩所としての活用など、施設の魅力向上を図った。 ・山城総合運動公園運動施設と一体的な施設利用を図るため年間調整を行い、山城総合運動公園で開催できない競技会や試合をこの施設で開催するよう継続して調整を実施。 ○新たな取組の実施 ・開通が遅延しているものの新名神高速道路開通後の周辺環境の変化も見据えて、ペットと訪れることができるドッグラン施設の運営やドローン講習会の誘致、近接するキャンプ場と連携した合宿利用について、令和４年度から先進事例の調査を進めている。 ・試合練習会場が不足しているとの声を聞いているサッカー種目について、府競技団体を通して加盟クラブに夜間を含めた利用ニーズのアンケートを実施し、広場の機能向上（人工芝や照明設備）を行った場合に、夜間において、一定数の利用ニーズが有ることを確認。 ・広場を通る地域公共交通機関（バス）が運転手不足から減便されており、今後の地域公共交通の維持が課題となっている。こうした状況を踏まえた広場のあり方について検討。
なお残る課題・問題点	◆立地が不便で、50歳以上の年齢層が約７割以上と、施設の利用者は限定的。
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□国民体育大会後の暫定利用が継続している印象が否めなく、実質的な利用が活発とは言えない。 □管理面では効率性が図られているが、新たな利活用について検討すべき。 □立地を考慮すると、山城総合運動公園の補完的役割を担う施設とすることも一案と考える。 □今後の施設運営にあたっては、設置目的の再考が必要と思料。

京都府の検証結果及び対応方向	要 改 善 <改善方策> ◎新たな利活用方法の検討を進めながら、施設のあり方や役割について検討すること。 <今後の対応> ○年間7万人の利用実績やこれまでの取組を踏まえ、近隣施設との役割分担や連携等、施設のあり方について検討する。
-----------------------	---